教科内容

1年生

科 目 名	生物				授業担当者	奥田もえり	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

歯科衛生士を目指す学生にとって基礎医学の習得は必須である。
本講義は基礎医学を学ぶための土台となる生物学を習得するとともに、生命科学に関する幅広い教養を身に付けることを目指す。

≪到達目標≫

1．生物の特徴を理解する。
2．細胞の構造と基本的な機能を理解する。
3．遺伝と遺伝子について理解する。
4．外部刺激の受容メカニズムについて理解する。
5．神経系の基本的特性を理解する。
6．内分泌系の特徴と働きを理解する。
7．国家試験に求められる生物学の基礎知識を習得する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実習	実習	実技
1	生物とは何か	○				
2	細胞の働き（P16-28）	○				
3	細胞の活動（P28-36）	○				
4	体細胞分裂と体の組織（P36-47）	○				
5	減数分裂(P50-54)	○				
6	遺伝と遺伝病(P55-64)	○				
7	遺伝子の発現(P65-57)	○				
8	刺激の受容と反応(P74 -77)	○				
9	神経系による刺激の伝達(P77-83)	○				
10	内部環境を保つ仕組み(P84-86)	○				
11	内分泌系(P86-90)	○				
12	自律神経とホルモン(P90-91)	○				
13	生体防御(P92-96)	○				
14	動物の行動と進化(P97-105)	○				
15	まとめ	○				

≪評価方法≫

出席状況・課題・小テスト定期試験等で総合的に評価

≪教科書・参考文献≫

教科書　：「生物学（最新歯科衛生士教本）」医歯薬出版

≪実務経験≫

高等学校にて生物の授業経験有。現在は再生医療関連企業に勤務。これまでの授業経験と現在の職務経験を活かし、生物の授業を行います。

科 目 名	化 学				授業担当者	岩切 喜一郎	
開講時期	1年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教 員	兼任	専任

≪学習目標≫

近年優れた性質を示す素材の需要が高まり、新製品が次々に生み出されている。一方で、危険な物質や有害な物質も含まれている。本科目「化学」では物質の成り立ちや物質の性質、様々な化学変化について学び、これらの学習を通して日常生活との関わりを考えていく。

≪到達目標≫

・化学と日常生活との関わり、特に物質とその構成要素

・歯科医療に関する多種多様な物質と上手に付き合っていかなくてはならない。そのために、化学的な知識として身につけさせる。

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	・物質について学ぼう	○		
2	混合物と純物質、物質の三態、原子の構造、化学結合	○		
3	・物質量と化学反応式	○		
4	原子量、分子量、式量、物質量と質量の関係	○		
5	物質量と気体のの体積、様々な化学反応式	○		
6	・酸・塩基とその反応	○		
7	酸性、塩基性を示す身近な物質、酸性、塩基性の強弱を数値で比較、中和の時の酸、	○		
8	塩基の量的関係	○		
9	PHはどのように調べられるか	○		
10	質量パーセント濃度とモル濃度	○		
11	・酸化・還元反応	○		
12	酸化・還元とはどのような反応なのだろうか	○		
13	酸化・還元の様子を数値を用いて表す	○		
14	酸化剤と還元剤の働きと反応式	○		
15	・有機化合物の主な構成の説明と医療現場における消毒薬（エタノール）・高分子化合物について学習する	○		

≪評価方法≫

定期試験、出席状況、授業態度などで、総合的に評価する

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本「化学」（医歯薬出版）

化学基礎（第一学習社）

≪実務経験≫

理数系教員として、県立・私立高校勤務後、美容専門学校において「香粧品化学」を担当、実践的な講義を行います。

科 目 名	心理学				授業担当者	波平　利美	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

心理学の基礎から応用の多岐にわたる分野を学習する。

日常的な現象と密接に関連する心理学の知識を用い、人間を理解する力、対人関係スキルを培う。

≪到達目標≫

・科学的な思考や多面的にものを把握する力を獲得する。・人間の様々な心理的機能を理解する。

・自己、他者の心理と行動について洞察する姿勢を身につける。

・歯科保健指導に関わる理論と行動変容を理解し、その手法を活用できる。

・ストレスについて理解し、ストレスマネジメントの指導ができる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	心理学の歩みと研究法（オリエンテーション・歴史・研究法）	○		
2	見る・聞く・感じるこころ（知覚成立の基礎・体制化・諸相）	○		
3	学ぶこころ（学習のプロセス）	○		
4	覚えるこころ（記憶のメカニズム・病理とゆがみ）	○		
5	やる気の心理（動機づけ・欲求）	○		
6	基礎哀楽のこころ（感情・フラストレーション・ストレス）	○		
7	その人らしさの心理（パーソナリティ）	○		
8	かしこさの心理・考えるこころ（知能・思考・問題解決・創造性）	○		
9	発達するこころ１（発達段階と発達課題・乳幼児期・児童期）	○		
10	発達するこころ２（青年期・成人期・高齢期）	○		
11	人と関わる心理（対人認知・対人魅力・帰属理論）	○		
12	人と集うこころ（集団・リーダーシップ・社会的影響）	○		
13	健康なこころ（メンタルヘルス・心理臨床・ストレスマネージメント）	○		
14	カウンセリング・思いを伝えあうこころ（ロジャーズ理論・コミュニケーションスキル）	○		
15	保健行動支援のための基礎知識（行動変容関連理論と実践法・認知行動療法）	○		

≪評価方法≫

期末テスト及び講義ごとの学習カード、受講態度、出席状況を総合的に評価する。

期末テスト内容は、教科書及び全講義のレジュメより出題する。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「心理学」（医歯薬出版）

歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）

参考文献は、講義で適宜紹介する。

≪実務経験≫

公認心理師。2004年～　沖縄県教育委員会委嘱スクールカウンセラーとして県内公立小中学校で勤務。

2017年～　県内私立中高一貫校でスクールカウンセラーとして勤務。

2015年～　沖縄歯科衛生士学校非常勤講師。

心理学に関する専門的知識と実務経験（20年）を活かして、心理学の講義を担当する。

科 目 名	倫理学				授業担当者	田場　由美雄	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	1単位　20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

倫理学とは、人間社会の中で人間の行為の善悪つまり、何が「よい」ことで、何が「わるい」ことか、という「よい」「わるい」を決め、評価・研究する学問です。従って、人間のあらゆる行為がその研究対象になるのですが、授業では「王道」である西洋哲学史の中の倫理学については必要最小限度に触れるのみに留め、現代社会の中で私達が生きていく上での最低限度の倫理的感性を身につけるための「応用倫理学」に焦点をあてて勉強します。

≪到達目標≫

モラル・ハザード(道徳破壊)の声が久しい現代社会の中で、私たちが生き(行為し)ていく上での最低限度のモラル・センス(倫理的感性)を身につけてもらいます。
そのためには 自分たちの身につけてきた道徳意識を自己反省的に捉え返しながら、人間関係(そこには、家族の中の親と子、学校、職場等の中の人間関係が含まれる)を調整し、自己を律するマナー等を授業で学んだことと照らし合わせながら他人(及び自己)に説得的に説明できるよう、記述(文章表現)する訓練を課し、その到達達成をみます。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	倫理学への誘い－イントロダクション&ガイダンス	○				
2	哲学の中の倫理学－倫理学の根本について	○				
3	過去・現在・未来の倫理学 1～3までの項で西洋哲学史カント、ミル等にも触れる	○				
4	応用倫理学の基本的なタームの解説－正義・平等・分配・幸福など	○				
5	自律の倫理学	○				
6	親と子の世代間倫理学－家族の倫理学、子育ての倫理学	○				
7	社会的共同性の倫理学	○				
8	強者と弱者の倫理学	○				
9	宗教と倫理学	○				
10	環境倫理学など　全体の補足まとめ	○				

≪評価方法≫

受講態度や出席状況を参考程度にして、主として授業の中で課す小レポート、提出感想文、定期試験の成績、この三つで総合的に評価します。

≪教科書・参考文献≫

教 科 書 :歯科衛生学シリーズ 「歯科医療倫理学」(医歯薬出版)
参考資料:随時資料プリント配布

≪実務経験≫

講師として、沖縄県立看護大学看護学部看護学科で、教養科目の「沖縄の歴史と文化」を1998年4月から10年間担当。

科 目 名	社会学				授業担当者	髙江州　敦子	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	1単位 16時間	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

本授業では、沖縄の年中行事の概要を紹介する。

具体的な事例として（元日のあり様・三月ひな祭り・5月ウマチー・6月ウマチー・7月のお盆・9月重陽の節供・10月の竈廻り・12月の御願解き）を取り上げて授業を進める。

≪到達目標≫

授業を通して、暮らしに根づく沖縄の伝統的な年中行事を学び、その行事における儀礼的な意味について理解を深める。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	オリエンテーション（授業の進め方・社会学とは等など）	○		
2	1月・2月の行事（主に元日の儀礼）	○		
3	3月・4月の行事（主にひな祭り）	○		
4	5月の行事（5月ウマチー）	○		
5	6月の行事（6月ウマチー）	○		
6	7月・8月の行事（主にお盆）	○		
7	9月・10月の行事（主に重陽の節句）	○		
8	11月・12月の行事（竈廻りと御願解き）	○		

≪評価方法≫

毎回のリアクションペーパー（学んだ内容や感想）の提出と、

期末試験及び、授業への参加姿勢などによって評価する。

≪教科書・参考文献≫

テキスト：特になし。毎回配布するレジュメと資料にそって授業を行う。

参考文献：配布するレジュメに明記して紹介する。

≪実務経験≫

平成12年～　　：沖縄国際大学非常勤講師（総合文化学部社会文化学科任用）

平成15年～25年：名桜大学非常勤講師（国際学部国際文化学科）

平成27年～　　：沖縄歯科衛生士学校非常勤講師

科 目 名	英語				授業担当者	城間 純子	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

外国人患者とコミュニケーションする上で、手助けになるような英語を修得する。

≪到達目標≫

・外国人患者の電話での予約に対応できる。

・病状を質問することができる。

・症状の説明を聞き、歯科医師に伝達することができる。

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	・電話での予約	○		
2	・薬の依頼	○		
3	〃	○		
4	・救急の予約	○		
5	〃	○		
6	・国民健康保険	○		
7	〃	○		
8	・患者さんに症状を説明してもらう	○		
9	〃	○		
10	・病状を尋ねる	○		
11	〃	○		
12	・歯周病	○		
13	〃	○		
14	・妊婦	○		
15	・なぜクリーニングが必要か	○		

≪評価方法≫

授業態度を加味する。

テストで総括的評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「歯科英語」(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 「歯科英語」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

県立高校で英語の講師として勤務しており、この経験をもとに講義を行います。

科 目 名	解剖学				授業担当者	泉水 奏	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位　30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

人体の構造を理解する

発生および遺伝について理解する

人体の機能について理解する

≪到達目標≫

人体の構造、機能、発生について十分な知識を有し、説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	解剖学ガイダンス	○				
2	組織と発生	○				
3	骨格系	○				
4	筋と運動	○				
5	消化、吸収	○				
6	循環	○				
7	神経系	○				
8	呼吸	○				
9	感覚	○				
10	排泄	○				
11	体温	○				
12	内分泌	○				
13	生殖	○				
14	遺伝学の基礎	○				
15	まとめ	○				

≪評価方法≫

期末試験での理解度の評価

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本「解剖学・組織学・生理学」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

琉球大学医学部　助教として医学部学生講義、実習担当

琉球大学　医学研究科　にて研究に従事

科 目 名	組織・発生学				授業担当者	和泉　伸一	
開講時期	1年 前期				単位・時間数	1単位 20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)	校外			教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

人体を構成する細胞や組織ならびに個体が形成される過程を知る。
顔面や口や歯などが胚子・胎児期にどのようにできたかを知り、また歯や歯周組織を構成する組織や細胞を知ることによってそれらの正常な構造や機能が理解できる。

≪到達目標≫

細胞・組織・発生の専門用語や歯の断面像での組織およびその特徴的な構造や細胞名を覚え、その意味が説明でき、模式図を描き模式図に用語を記入したりできること。
肉眼と顕微鏡像を頭の中で関連付けること。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	人体の構造と機能I・ I編　組織と発生、　1章　細胞	○				
2	人体の構造と機能I・ I編　組織と発生、　1章　組織	○				
3	人体の構造と機能Ⅰ・ I編　組織と発生、　2章　発生	○				
4	歯・口腔の構造と機能・I編　顎・口腔の組織と機能、1章　顔面と口腔の発生	○				
5	“II編　歯および歯周組織の構造と機能、2章　歯および歯周組織の発生	○				
6	“II編、3章　歯および歯周組織の構造と機能（エナメル質）	○				
7	“II編、3章　歯および歯周組織の構造と機能（象牙質・歯髄複合体）	○				
8	“II編、3章　歯および歯周組織の構造と機能（セメント質、歯根膜）	○				
9	“II編、3章　歯および歯周組織の構造と機能（歯槽骨、歯肉）	○				
10	“II編、3章　歯および歯周組織の構造と機能（口腔粘膜）、まとめ	○				

≪評価方法≫

期末試験：60点
授業内での質疑応答：40点（資料と課題を各回に配布し、課題レポートを提出）
合計：100点

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能I　解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版）
歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

長崎大学大学院医歯薬学研究科（歯学系）の教員・研究員（医学博士）として勤務し、長崎大学歯学部・長崎歯科衛生士専門学校、その後、沖縄歯科衛生士専門学校等において、（口腔）組織学と発生学の講義と実習を担当し、歯科医師国家試験プール問題および歯科技工士国家試験問題（長崎県）の作問やPBLおよびCBT教育に携わった、実践経験のある教員による授業科目です。

科 目 名	生理学			授業担当者	徳田 安成	
開講時期	1年 前期			単位・時間数	1単位 20時間	
授業方法	講義	10	演習	実験・実習・実技		
授業場所	(校内)	校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

生体がもつさまざまな状態を研究する自然科学の1つで解剖学、組織学、薬理学（生化学）とも、きわめて関係が深く、これらの科目と相互に関連して知識を整理し内容を修得する。

≪到達目標≫

人体生理学の知識と理解を確実に臨床的に必要な事項を説明できるようになる。

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	細胞の構造と機能　筋の構造と機能	○		
2	胃、小腸、大腸、の機能	○		
3	循環（血管の構造、機能）（血液の成分、機能、凝固と溶解、血液型）	○		
4	循環（心臓、動脈系、静脈系、リンパ系）	○		
5	神経系の基本的機能	○		
6	呼吸	○		
7	感覚、排泄	○		
8	体温、内分泌	○		
9	生殖、まとめ	○		
10	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総合的評価を行う

授業態度などを総括的に加味する

≪教科書・参考文献≫

教科書：歯科衛生学シリーズ　「解剖学、組織学、生理学」（医歯薬出版）

教科書：最新歯科衛生士教本「口腔解剖学、口腔組織発生学」（医歯薬出版）

参考文献：生理学（光文堂）

≪実務経験≫

臨床経験33年、とくだ歯科クリニック開設後26年の実務経験をもとに生理学について講義します。

科 目 名	生化学				授業担当者	城間　かおり	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	1単位 20時間（内10時間担当）	
授業方法	講義	5	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

生命の基本となっている細胞の構造や細胞小器官の働き、栄養素の体内変化とエネルギーの生成過程を理解する。

≪到達目標≫

- 生命の基本単位が細胞であり、細胞の構造とそれぞれの役割が説明できる。
- 三大栄養素の構造式からその特徴をつかみ、代謝過程の理解へつなげる。
- 三大栄養素の代謝過程を理解し、エネルギーが生成される過程を説明できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	生体の構成要素	○		
2	生体における化学反応	○		
3	糖質と脂質の代謝	○		
4	タンパク質とアミノ酸の代謝	○		
5	生体における恒常性の維持	○		

≪評価方法≫

定期試験で評価する。出席状況や授業態度も参考にする。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能２　「栄養と代謝」（医歯薬出版）

スクエア　最新図説生物（第一学習社）

≪実務経験≫

病院の管理栄養士として約10年間勤務し、高齢者の栄養管理とNSTを担当した実務経験や沖縄大学健康栄養学部管理栄耀学科の助手として従事している教育、研究活動を踏まえ、栄養素の体内代謝及び細胞の構造について講義を行います。

科 目 名	生化学				授業担当者	儀間　裕	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	1単位 20時間（内12時間担当）	
授業方法	講義	6	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

組織学の基礎を学び、基本的な人体の成り立ちについて理解する。

歯と歯周組織および唾液腺等の口腔領域諸器官の組織学的構造と生化学的機能を理解する。

唾液およびプラークの成分と機能について理解する。

≪到達目標≫

・人体を構成する器官系・器官・組織・細胞の関係を説明できる。

・歯と歯周組織および唾液腺の組織学的特徴と機能について説明できる。

・唾液およびプラークの生理的機能やう蝕・歯周病等の疾病要因としての意義を説明できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	人体の成り立ち（組織学の基礎）	○		
2	歯と歯周組織の生化学	○		
3	硬組織の生化学	○		
4	唾液の生化学	○		
5	プラークの生化学	○		
6	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う

出席状況、授業態度などを総括的に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「人体の構造と機能２　栄養と代謝」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能２　栄養と代謝」（医歯薬出版）

スクエア　最新図説生物（第一学習社）

≪実務経験≫

昭和56年より平成12年まで琉球大学医学部歯科口腔外科学講座にて文部教官（助手）として口腔領域の疾患の診療および歯科口腔外科学に係る学生教育、臨床研究に従事した。

平成13年～17年まで同大学医学部解剖学第2講座にて非常勤講師として口腔組織の基礎研究を行った。

以上の実務経験から基礎的および臨床的知見に基づいた歯と歯周組織の生化学に関する講義を行います。

科 目 名	口腔解剖学				授業担当者	友寄　泰樹	
開講時期	1年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

口腔とその周囲組織の構造と機能について、臨床と関連づけながら理解する。

≪到達目標≫

・口腔とその周囲組織の解剖学的名称を正確に表現できる。

・顔面ならびに口腔を構成する骨、頭頸部の脈管系、神経について概説できる。

・頭頸部の筋の構成と機能、舌・唾液腺・顎関節の構造と機能について概説できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	口腔①　口腔付近の表面、口腔前庭、口唇、頬、歯肉	○				
2	口腔②　固有口腔（口蓋、口腔底、舌）	○				
3	頭蓋骨	○				
4	上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨、歯周組織	○				
5	顔面筋（表情筋）、咀嚼筋、舌筋、頸部の筋	○				
6	１～５回までのまとめと知識の確認	○				
7	顎関節	○				
8	唾液腺（大唾液腺、小唾液腺）、咽頭、喉頭	○				
9	口腔付近に分布する脈管系（動脈、静脈、リンパ系）	○				
10	神経①（脳神経の概要、三叉神経）	○				
11	神経②（顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経、自律神経）	○				
12	摂食、咀嚼、嚥下、構音、味覚に関する口腔解剖	○				
13	７～１２回までのまとめと知識の確認	○				
14	国家試験問題①（過去問）	○				
15	国家試験問題②、まとめ	○				

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う。

出欠状況、授業態度、小テスト、レポートなどを総括的評価に加味する。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ

歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版株式会社)

≪実務経験≫

歯科医師として東北大学歯学部・国立仙台病院・九州歯科大学の歯科口腔外科に勤務。

口腔外科での実務経験をもとに、口腔解剖学について講義・演習等を行います。

科 目 名	歯牙解剖学				授業担当者	吉田 誠	
開講時期	1年 前期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

・歯の基礎的な構造・機能・用語を習得する.

・乳歯と永久歯の各々の形態をスケッチなども取り入れながら理解し，その臨床的特徴を理解することにより，歯科衛生士として必要な知識を習得する.

≪到達目標≫

歯の形態を歯種別に理解することにより，歯種を鑑別し，歯の表示法や記号，歯の萌出順歯列と咬合，歯の形態異常などについて説明できる.

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯とは何か，歯の特徴，歯の構造，歯の種類と名称，歯の数と歯の記号，方向用語	○		
2	歯冠と歯根の形態，咬頭と歯根の数，歯の左右の特徴，歯の機能	○		
3	永久歯の特徴（上顎切歯）／（実習）上顎切歯のスケッチ	○		△
4	永久歯の特徴（下顎切歯）／（実習）上顎切歯のスケッチ	○		△
5	永久歯の特徴（上下顎犬歯）／（実習）上下顎犬歯のスケッチ	○		△
6	永久歯の特徴（上顎小臼歯）／（実習）上顎小臼歯のスケッチ	○		△
7	永久歯の特徴（下顎小臼歯）／（実習）下顎小臼歯のスケッチ	○		△
8	永久歯の特徴（上顎大臼歯）／（実習）上顎大臼歯のスケッチ	○		△
9	永久歯の特徴（下顎大臼歯）／（実習）下顎大臼歯のスケッチ	○		△
10	乳歯の特徴（永久歯との比較，上下顎乳前歯）	○		
11	乳歯の特徴（上下顎乳犬歯，上下顎乳臼歯）	○		
12	歯数の異常，大きさの異常，歯の重複 ，歯冠の異常，歯根の異常，萌出異常	○		
13	歯列 ／ スケッチminiテスト①	○		△
14	咬合 ／ スケッチminiテスト②	○		△
15	総括と演習問題	○	△	

≪評価方法≫

定期試験および課題提出にて総括的評価を行う.

出欠状況，授業態度などを総括的評価に加味する.

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として同仁病院 歯科口腔外科に勤務．主に口腔外科疾患の観血的治療を担当.

上記の実務経験をもとに「歯牙解剖」について講義・実習を行います.

科 目 名	口腔生理学				授業担当者	片岡 恵一	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位　20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

歯はそれ単独で機能しているわけではなく、周囲の硬組織、軟組織が複雑に関連して口腔機能を確立している。

それらのメカニズムを理解することによって、日常の臨床と結びつけることができるようその基礎を習得する。

≪到達目標≫

歯や口腔内の感覚、味覚、嗅覚、咬合、嚥下、発生、唾液の役割を理解し、説明できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯と口腔の感覚	○		
2	味覚と嗅覚	○		
3	下顎位、顎運動	○		
4	顎反射と咀嚼、吸啜	○		
5	嚥下と嘔吐	○		
6	まとめ(1)	○		
7	発声	○		
8	構音障害	○		
9	唾液	○		
10	まとめ(2)	○		

≪評価方法≫

期末試験にて総合的な評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

琉球大学医学部歯科口腔外科にて、矯正治療による咬合の獲得、障害者歯科治療での咬合機能の改善のための治療、言語療法士との、言語治療、嚥下評価など臨床での経験を反映させて基本的なことを講義いたします。

科 目 名	病理学(含口腔病理学)				授業担当者	仲西　奈穂	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位 30時間(内14時間担当)	
授業方法	講義	7	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

生体における病気の本態を巨視的及び微視的に理解する

≪到達目標≫

・健康について改めて理解する

・病気というものを、病気の原因・発生機序・経過・転帰という観点からとらえることを理解する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	病理学の意義・定義、病気の原因について理解する	○		
2	遺伝性疾患と奇形について理解する	○		
3	代謝障害について理解する	○		
4	増殖と修復について理解する	○		
5	循環障害について理解する	○		
6	炎症と免疫について理解する	○		
7	腫瘍について理解する　　まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　疾病の成り立ち及び回復過程の促進1　病理学・口腔病理学(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本「 病理学・口腔病理学 」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

歯科医師として、臨床に従事。歯科一般の治療を担当。

歯科医院での実務経験をもとに病理学について講義を行います。

科 目 名	口腔病理学				授業担当者	澤田　茂樹	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位 30時間（内16時間担当）	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

疾病の概念、その発生機序と病理学的特徴を理解する。さらに、歯と歯周組織ならびに口腔領域に発生する疾患の病態を理解する。

≪到達目標≫

歯の発育異常について説明できる。
う蝕の病因・病理学的特徴について説明できる。
根尖部歯周組織・辺縁部歯周組織の病変について説明できる。
歯科治療に伴う治癒の病理について説明できる。
口腔の発育異常を説明できる。
口腔粘膜疾患および前癌病変・口腔癌の病態を説明できる。
口腔ののう胞・腫瘍病変および唾液疾患の病態を説明できる。
加齢に伴う口腔病変を説明できる。
全身疾患と口腔病変との関連について説明できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	歯の発育障害	○				
2	う蝕	○				
3	歯髄疾患	○				
4	根尖性歯周疾患	○				
5	歯周疾患	○				
6	口腔粘膜疾患と口腔腫瘍	○				
7	口腔領域ののう胞と唾液腺疾患	○				
8	まとめ	○				

≪評価方法≫

定期試験で総合的評価を行う。
出欠状況、授業態度などを評価の参考にする。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本『病理学・口腔病理学　第2版』（医歯薬出版）
歯科衛生士国家試験対策①（第4版）　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として沖縄県立歯科口腔外科に勤務
（南部医療センター・こども医療センター、宮古病院、北部病院）。
琉球大学医学部病理学講座での実務経験も活かし、臨床経験をもとに
口腔病理学について講義を行う。

科 目 名	薬理学(含歯科薬理学)				授業担当者	山城　正裕	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	2単位　30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

薬を正しく使用するため、薬物の性質をよく知るとともに、生体と薬物の関わり合いについて知識を修得する。

≪到達目標≫

・薬物を投与したときにおこる変化(効果)を理解する。
・薬物の取り扱いに関する基本を理解する。
・全身的に投与する薬物に関する基本的な知識を修得する。
・歯科の治療内容と、それに関連する薬物の関係を理解する。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	総論	○		
2	総論	○		
3	総論	○		
4	ビタミンとホルモン　末梢神経系に作用する薬物	○		
5	中枢神経系に作用する薬物　循環器系に作用する薬物	○		
6	腎臓に作用する薬物　呼吸器系に作用する薬物	○		
7	消化器系に作用する薬物　血液に作用する薬物	○		
8	免疫と薬　悪性腫瘍と薬	○		
9	代謝性疾患治療薬　炎症と薬	○		
10	局所麻酔薬	○		
11	抗感染症薬	○		
12	消毒に使用する薬	○		
13	う蝕予防薬　歯内療法薬	○		
14	歯周疾患治療薬　顎・口腔粘膜疾患と薬	○		
15	まとめ	○		

≪評価方法≫

期末試験で総括的評価を行う。出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する。

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「薬理学」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

昭和60年以来の歯科臨床経験をもとに、薬理学について講義を行います。

科 目 名	微生物学（含口腔微生物学）				授業担当者	新垣　榮	
開講時期	1年 前期				単位・時間数	2単位 30時間（内14時間担当）	
授業方法	講義	7	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

安全確実に一般人・有病者に対して、全身衛生管理が行えるよう、微生物の様相と実態を把握する

≪到達目標≫

・微生物の一般的性状、病原因子を把握し、説明できる

・微生物の病原性と宿主の抵抗力のバランスについて説明できる

・感染・免疫について説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	疾病と微生物	○		
2	微生物の位置づけ	○		
3	細菌の性状と病原性	○		
4	ウイルスの性状と病原性	○		
5	宿主防御機構	○		
6	免疫機構	○		
7	過敏症	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う

出欠状況、授業態度などを総括評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「微生物学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

琉球大学医学部助手、米国国立衛生研究所研究員の実務経験をもとに講義を行います

科 目 名	微生物学(含口腔微生物学)				授業担当者	幸地　克	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位 30時間(内16時間担当)	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

口腔疾患に関する予防処置、保健指導をするにあたり、その原因となる微生物やそれに
よって起こる感染症について知識を修得する

≪到達目標≫

・感染症の原因となる微生物の特徴とその疾患について知る
・細菌に対する化学療法剤について述べることができる
・感染予防のための滅菌と消毒について述べることができる
・口腔内環境と常在微生物について述べることができる
・口腔内感染症について、その起因菌との関わりについて知る

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	主な病原微生物について、その症状と病原性について①	○		
2	主な病原微生物について、その症状と病原性について②	○		
3	主な病原微生物について、その症状と病原性について③	○		
4	口腔内細菌叢とプラークについて	○		△
5	口腔感染症　う蝕	○		
6	口腔感染症　歯周病	○		
7	化学療法と化学療法薬	○		
8	院内感染対策と滅菌、消毒	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う
出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「微生物学」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

歯科医師としてタマキ歯科医院、仲里歯科医院、こうち歯科医院にて勤務。
主に歯科、小児歯科の治療を担当。
これらの診療所での実務経験をもとに微生物学について講義・実習を行います。

科 目 名	口腔衛生学				授業担当者	古堅　信	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位 30時間（内14時間担当）	
授業方法	講義	7	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

歯・口腔の健康と予防に関しての総論的概念の理解と基礎的な知識を習得する。

≪到達目標≫

歯・口腔の健康と予防を理解し、説明できる

歯・口腔清掃のについて理解し、説明できる

歯科疾患の疫学・う蝕の予防について理解し、説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯・口腔の予防と健康（前半）	○		
2	歯・口腔の予防と健康（後半）	○		
3	歯・口腔の付着物・沈着物	○		
4	口腔清掃（前半）	○		
5	口腔清掃（後半）	○		
6	歯科疾患の疫学・う蝕の予防（前半）	○		
7	歯科疾患の疫学・う蝕の予防（後半）	○		

≪評価方法≫

定期試験にて評価

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「保健生態学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として開業し、そこでの実務経験を基に、歯・口腔の保健生態学について講義します

科 目 名	口腔衛生学				授業担当者	野原 昭彦	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	2単位 30時間(内16時間担当)	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

フッ化物によるう蝕予防の安全性と有効性を理解する

歯周疾患の予防について理解する

その他の疾患・異常の予防について理解する

≪到達目標≫

各ライフステージにおける口腔保健管理を理解する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	フッ化物について総論①	○		
2	フッ化物について総論②	○		
3	フッ化物によるう蝕予防法①	○		
4	フッ化物によるう蝕予防法②	○		
5	歯周疾患の予防	○		
6	その他の疾患・異常の予防	○		
7	各ライフステージにおける口腔保健管理	○		
8	総括(まとめ)	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う

出欠状況、授業態度なども総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「保健生態学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科医師として日本歯科大学附属病院補綴学第Ⅱ講座入局、主にクラウンブリッジ治療を担当。同大学付属病院一般歯科診療室にて臨床実習生および研修歯科医を指導。

中部地区歯科医師会地域保健担当理事として地域の口腔保健活動に係わった経験をもとに講義をする。

科 目 名	公衆歯科衛生				授業担当者	島袋 郁子	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	2単位 30時間(内16時間担当)	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

公衆歯科衛生の意義を理解し、地域歯科保健活動のうち、妊娠期から、乳幼児期、
学童期における、歯科衛生士としての知識と、考え方、対応を学習する。
国際保健目標、国際協力について学習する。

≪到達目標≫

ライフステージの中で、胎児期から青年期までと、妊娠期の口腔保健管理について説明できる
妊娠期の特徴を理解し、母性歯科保健の意義と内容について説明できる
乳幼児期の口腔衛生、むし歯予防、口腔育成について理解し、指導事項を説明できる
学童期、青年期の口腔衛生の現状を把握し、保健活動、指導事項を説明できる
国際保健、国際協力の状況を理解し、国際的な口腔保健目標を説明できる

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	日本や沖縄県の地域保健を考える上での、地域性、歯科の現状と課題について	○				
2	母子保健の意義、母子歯科保健の意義、母性歯科保健の活動の実際、妊娠期の口腔衛生	○				
3	乳児期の歯科保健の意義、口腔衛生の状況、乳児健診での保健指導、母乳育児を含めた育児支援	○				
4	乳児期の歯科保健の意義、口腔衛生の状況、1歳6ヶ月児、3歳児健診での歯科保健指導	○				
5	地域保健活動における、コミュニケーションスキルの必要性、実際		○			
6	学校保健の意義、学校歯科保健の意義、活動の仕組み、学童から青年期までの口腔衛生の現状	○				
7	学校歯科保健の実際、食育との連携について	○				
8	国際保健の状況、保健戦略、口腔保健目標、全体のまとめ	○				

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う
出欠状況、授業態度、レポート提出などを総括的評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「保健生態学」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

歯科医師として、おさむファミリー歯科クリニックに勤務。
主に、小児歯科の治療と保健指導を担当。

科 目 名	公衆歯科衛生				授業担当者	高良　政憲	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	2単位 30時間(内14時間担当)	
授業方法	講義	7	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

健康に関わる地域の役割

地域保健、公衆衛生、学校保健、成人・老人保健

≪到達目標≫

・地域保健、公衆衛生、学校保健、成人及び老人保健等のそれぞれの役割を把握する

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	地域社会と地域保健の概念と地域保健の組織	○				
2	地域保健の新たな概念	○				
3	地域保健の新たな概念及び地域保健活動の進め方	○				
4	健康づくり対策と地域歯科保健	○				
5	成人・老人保健の意義と保健活動	○				
6	成人・老人保健の意義と介護予防授業	○				
7	まとめ（総括）	○				

≪評価方法≫

定期試験で総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ 「保健生態学」（医歯薬出版）

最新　歯科衛生士教本 「保健生態学第3版」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

日本歯科医療管理学会会員　沖縄県歯科医師会学校歯科委員会所属。

平成13年より歯科衛生士学校にて、公衆歯科衛生学を担当。

平成2年～平成18年　那覇市立鏡原中学校。平成19年～令和元年まで豊見城市立伊良波小学校校医を担当し、その経験をもとに講義をいたします。

科 目 名	衛生・公衆衛生学				授業担当者	新垣　榮	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

衛生学・公衆衛生の木定期を理解し、歯科衛生士の立場から健康問題と環境因子との相互関係を理解する

≪到達目標≫

公衆衛生及び予防医学の概要、意義を説明できる。

人口、保健統計指標を列挙でき、疫学的方法、感染予防について説明できる

地域、成人、老人、産業、精神保健について説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	公衆衛生の概要、健康の定義、予防医学	○		
2	疫学の概要、健康障害の発生要因	○		
3	記述疫学、分析疫学、介入研究	○		
4	世界とわが国の人口、人口構造と人口の高齢化	○		
5	人口動態統計の概要、出生、死亡の指標、生命表	○		
6	環境の概念、空気、水、放射線と健康	○		
7	地球環境、公害、廃棄物処理	○		
8	感染症の種類と流行の三要因	○		
9	感染症の予防対策、動向	○		
10	食の安全、食中毒の疫学、分類	○		
11	地域保健の概要と組織、活動の進め方	○		
12	成人、老人保健の意義と保健活動、介護サービス	○		
13	産業保健の概要と職業性疾病、産業保健管理・対策	○		
14	精神保健の医療、福祉、心の健康づくり	○		
15	まとめ（総括）	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う

出欠状況、授業態度などを総括評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ「保健生態学」（医歯薬出版）

≪実務経験≫

琉球大学医学部助手、米国国立衛生研究所研究員の実務経験をもとに講義を行います

科 目 名	歯科衛生士概論				授業担当者	上 原 生 子	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	14	演習	1	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教 員	兼任	専任

≪学習目標≫

歯科衛生業務を実践して、人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多用な科目において知識・技術を習得する態度及び論理的思考法の基礎を習得する

≪到達目標≫

1 歯科衛生の歴史につて理解する
2 歯科衛生活動内容について理解する
3 歯科衛生過程を活用する意義を理解する
4 歯科衛生士法と歯科衛生業務について理解する
5 歯科衛生士と医療倫理について理解する
6 歯科衛生士の社会組織活動について理解する

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実習	実習	実技
1	歯科衛生学とは(1章)	○				
2	歯科衛生の歴史(2章)	○				
3	歯科衛生活動のための理論①(3章)	○				
4	歯科衛生活動のための理論②(3章)	○				
5	歯科衛生過程①(4章)	○				
6	歯科衛生過程②(4章)		○			
7	歯科衛生士法と歯科衛生業務①(5章)	○				
8	歯科衛生士法と歯科衛生業務②(5章)	○				
9	歯科衛生士法と歯科衛生業務③(5章)	○				
10	歯科衛生士と医療倫理①(6章)	○				
11	歯科衛生士と医療倫理②(6章)	○	△			
12	歯科衛生士と医療倫理③(6章)	○	△			
13	歯科衛生士の活動と組織(7章)	○				
14	海外における歯科衛生士(8章)	○				
15	まとめ	○				

≪評価方法≫

・ 定期試験により判定. 60点に満たない場合は再試験を行う
・ 課題提出、出席状況、授業態度を加味し総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

1 最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」
2 最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理」
3 最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律・制度 第3版」
4 その他必要な参考資料を適宜使用

≪実務経験≫

歯科診療所において、歯科衛生業務に従事. 主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務・受付業務を担当した経験や、沖縄県歯科衛生士会の三役の組織活動の経験を、授業に活かしていく.

科 目 名	歯科臨床概論				授業担当者	片岡 恵一	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	1単位 20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

一般的な歯科の分野について概説し、将来の実習や歯科衛生士としての業務の習得のための知識を習得する。

≪到達目標≫

歯科医療の種類、内容について分野ごとに理解できる。

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	歯科臨床の場と関わる人々、診療の対象者、歯科診療所の紹介と安全管理の概要	○		
2	歯科診療所における歯科診療と歯科衛生士業務、ライフステージと歯科診療の概要、バイタルサインの確認と手順、画像検査の概要	○		
3	歯周組織検査の概要、痛みのコントロールについての概要(歯科麻酔を含む)	○		
4	小児歯科治療の概要(小児の発達、先天異常、う蝕予防処置など)、歯科矯正治療の概要	○		
5	口腔外科治療の概要(外傷、抜歯、口腔粘膜疾患など)	○		
6	歯科保存治療の概要(知覚過敏症、う蝕、歯内療法など)	○		
7	歯周治療の概要(全身疾患との関連、基本治療と外科治療、メインテナンスなど)	○		
8	歯科補綴治療の概要(クラウン・ブリッジ、有床義歯など)	○		
9	障害者歯科治療や高齢者歯科治療の概要、摂食嚥下障害の概要	○		
10	全身疾患への対応、周術期の対応、歯科訪問診療の概要	○		

≪評価方法≫

期末試験での点数にて評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」(医歯薬出版株式会社)

≪実務経験≫

歯科臨床歴17年、大学病院、診療所などでの実務経験をフィードバックして講義を行う予定。

科 目 名	歯科予防処置				授業担当者	志喜屋やよい・新垣花枝	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位　35時間	
授業方法	講義	4	演習	1	実験・実習・実技	16	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。

特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身につける。

≪到達目標≫

・歯科予防処置の概念と内容を概説できる.
・歯科予防処置の法的位置づけを説明できる.
・歯科予防処置の範囲と業務を概説できる.
・歯周病予防を概説できる.
・う蝕予防を概説できる.
・歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる.
・口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる.
・プラークの形成過程と成分を説明できる.
・歯石の形成過程と成分を説明できる.
・う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる.
・歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる.
・スケーラーの種類と使用目的を説明できる.
・シックル型スケーラーを操作できる.
・シャープニングができる.
・歯面清掃・歯面研磨の意義を説明できる.
・歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる.

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	歯科予防処置論の概要	○		
2～3	歯科予防処置の基礎知識、う蝕と歯周病の基礎知識	○	△	
4～16	歯科衛生介入のための歯科予防処置	○		
	シックルスケーラー基礎実習	△		○
17～18	シャープニング	△	△	○
19	シックルスケーラー基礎実習			○
20	歯面研磨実習	△	△	○
21	まとめ	△	○	

≪評価方法≫

定期試験により判定する。場合により、授業中に小試験を課することもある。

実技試験、課題提出、出欠状況、授業態度を加味し、総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本　「歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版」（医歯薬出版）

歯科衛生士教本　「歯周病治療の基礎と臨床」（永末書店）

福田知恵子・金子菜美江（著）「診査・ｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸ」（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版）

加藤久子（著）　「ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ・ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

加藤久子（著）　「ﾄｰﾀﾙｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として歯科医院に勤務。主に歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を担当。

歯科医院での実務経験をもとに歯科予防処置について講義・実習を行う。

科 目 名	歯科予防処置				授業担当者	志喜屋やよい・新垣花枝	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	2単位　70時間	
授業方法	講義	1	演習	2	実験・実習・実技	14	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。
特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを
身につける。

≪到達目標≫

・歯面清掃器材の種類と使用方法を説明できる.
・歯面研磨剤の種類と用途を説明できる.
・歯面清掃ができる.
・歯面研磨ができる.
・シックル型スケーラーを操作できる.
・エア(音波)スケーラーを操作できる.
・プローブの種類と操作方法を説明できる.
・歯周病に関連する指標を説明できる.
・歯・歯肉・口腔の検査ができる.
・診査の結果を説明できる.
・口腔内の観察項目とポイントをあげる.
・歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる.
・歯周病に関連する検査を列挙できる.

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
1	シックルスケーラー基礎実習	△	△	○
2	歯面研磨実習	△	△	○
3～10	シックルスケーラー相互実習		△	○
11～13	エアスケーラー実習	△	△	○
14～16	歯周ポケット測定実習	△	△	○
17	まとめ	○	△	

≪評価方法≫

定期試験により判定する。場合により、授業中に小試験を課することもある。
実技試験、課題提出、出欠状況、授業態度を加味し、総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本　「歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版」（医歯薬出版）
歯科衛生士教本　「歯周病治療の基礎と臨床」（永末書店）
福田知恵子・金子菜美江（著）「診査・ｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸ」（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版）
加藤久子（著）　「ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ・ｽｹｰﾘﾝｸﾞ・ﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）
加藤久子（著）　「ﾄｰﾀﾙｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸ」　（医歯薬出版）

≪実務経験≫

歯科衛生士として歯科医院に勤務。主に歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を担当。
歯科医院での実務経験をもとに歯科予防処置について講義・実習を行う。

科 目 名	歯科保健指導				授業担当者	稲嶺 直子・志喜屋 やよい	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位　30時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技	7	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

- 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本的知識、技術及び態度を習得する
- 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解する
- 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する
- ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する

≪到達目標≫

- 歯科衛生士の法的な位置づけを説明できる
- 歯科保健指導論の定義を説明できる
- 健康の定義を説明できる
- プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの健康戦略の概要を説明できる
- 食品・糖類とう蝕の関連性を説明できる
- う蝕予防のための食品摂取方法を選択できる
- 歯ブラシの種類と特徴を説明できる
- 各種ブラッシング方法の特徴を説明し、実施できる
- 歯磨剤、フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法を説明できる
- 補助的清掃用具の種類・特徴・適応を説明し、操作できる
- 洗口剤の特徴と使用方法を説明できる
- 各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる
- 集団に対する伝達方法を説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1 2	総論《2コマ》 歯科保健指導論の概要	○		
3～5	歯科保健指導の基礎《3コマ》 口腔の機能	○		
6～8	歯科保健指導実施のための基礎知識《3コマ》 行動変容の要素とそのステップ	○		
9～15	歯科衛生介入のための歯科保健指導《7コマ》 口腔清掃方法 食生活（栄養指導）の基礎	△		○
16～17	地域歯科保健活動における健康教育や保健指導《2コマ》 教育媒体作成	△		○

≪評価方法≫

- 定期試験（2回）により判定する、前期試験：50%、後期試験：50%
  前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う
  実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

- 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
- 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版
- 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」
- 最新歯科衛生士教本「保健生態学」第3版　以上（医歯薬出版）
- 大谷広明（監）「新 歯ブラシ辞典」（学建書院）
- 口腔保健実践ガイドブック　第2版　（学建書院）
- その他参考資料を適宜紹介

≪実務経験≫

歯科衛生士として臨床に従事。主に歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を担当。
その経験をもとに歯科保健指導の講義を行います。

科 目 名	歯科保健指導				授業担当者	稲嶺 直子・志喜屋 やよい	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	2単位　60時間	
授業方法	講義	11	演習	12	実験・実習・実技	5	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

・健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本的知識、技術及び態度を習得する

・歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者（個人、集団）の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ

・歯科保健指導の遂行に必要な、対象者（個人、集団）の情報について収集方法を習得する

≪到達目標≫

・歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる
・口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる
・各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる
・各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアをセルフケアの歯科保健の目標を説明できる
・各ライフステージの食生活指導を実施できる
・集団に対する伝達方法を理解し説明できる（幼稚園実習）
・歯科衛生過程の全過程について理解し概要を説明できる
・歯科衛生過程を活用し症例検討することができる
・各ライフステージにおける全身状態と口腔の健康について理解し説明できる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1～4	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理《4コマ》 分析のためのデータ	○	△	△
5～8	ライフステージにおける歯科衛生介入《4コマ》 妊産婦、新生児・乳児期、幼児期、学齢期	○	△	
9～13	地域歯科保健活動《7コマ》 幼児期を対象とした歯科保健指導実習（教育媒体作成活用実習）	△	△	○
14～16	地域歯科保健活動《3コマ》 青年期、成人期	○	△	△
17～28	歯科衛生過程の進め方《14コマ》 歯科衛生過程の概要、歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断 歯科衛生介入、歯科衛生評価、演習	△	○	

≪評価方法≫

・定期試験（2回）により判定する、前期試験：50％、後期試験：50％
前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う
実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う

≪教科書・参考文献≫

・歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版
・新歯科衛生士教本「歯科保健指導」
・最新歯科衛生士教本「保健生態学」第3版
・事例でわかる歯科衛生過程
・よくわかる歯科衛生過程

以上（医歯薬出版）
その他参考資料を適宜紹介

≪実務経験≫

歯科衛生士として臨床に従事。主に歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を担当。
その経験をもとに歯科保健指導の講義を行います。

科 目 名	歯科診療補助				授業担当者	伊藝 律紀・宮城 花菜子	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位　35時間	
授業方法	講義	4	演習	2	実験・実習・実技	9	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

歯科診療補助の意味を理解し歯科診療上での基礎となる知識・技術を習得する。

≪到達目標≫

・歯科医療の補助と介助の違い、法的位置づけについて述べることができる
・医療安全と感染予防対策について理解し、実践できる
・手指消毒やグローブの装着・着脱ができる
・消毒、滅菌器具の取り扱いについて理解し、実践できる
・診療時の共同動作の基本ができる
・フォーハンドテクニックの基本動作ができる
・器具の取り扱いや受け渡しができる
・バキュームの基本動作ができる

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
1	歯科診療補助概要、歯科衛生士業務について	○		
2～3	診療の補助範囲、法的責任・医療安全と感染予防	○	△	
4	手指衛生(手指消毒)実習	△		○
5	グローブ装着法(滅菌・未滅菌)	△		○
6～7	滅菌と消毒・滅菌物の取扱い	○		△
8	診療室の基礎知識、診療設備、医療廃棄物の取扱い			○
9	指導用印象採得実習		△	
10	共同動作の基本・患者誘導・器具の受け渡し	△		○
11	実習室の機械操作(ユニット・コンプレッサー・実習片づけ)	△		○
12	患者誘導、器具の受け渡し(相互実習)			○
13～14	バキュームテクニック、スリーウェイシリンジ操作			○
15	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験により判定する。場合により、授業中に小試験を課することもある。
実技試験、課題提出、出欠状況、授業態度を加味し、総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助 第2版」医歯薬出版
新歯科衛生士教本　「歯科器械」医歯薬出版
新歯科衛生士教本　「歯科材料」医歯薬出版

≪実務経験≫

歯科衛生士として歯科診療所、歯科口腔外科に勤務。
これまでの実務経験をもとに講義を行います。

科 目 名	歯科診療補助				授業担当者	伊藝 律紀・宮城 花菜子	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	2単位　70時間	
授業方法	講義	2	演習		実験・実習・実技	17	
授業場所	(校内)		校外		教　員	兼任	(専任)

≪学習目標≫

歯科臨床の実践に必要な歯科診療補助の知識、技術、態度を習得し 歯科材料の取り扱い方法を取得する

≪到達目標≫

・バキュームの基本操作ができる
・歯科用石膏の特徴・種類・用途を説明できる
・アルジネート印象材の特徴と用途を説明できる
・アルジネート印象材の練和と管理ができる
・アルジネート印象採得とその対応ができる
・スタディーモデルの作製方法を理解する
・寒天印象材の使用方法を理解する
・歯科衛生材料の作製ができる
・セメント練和操作ができる

≪授業計画≫

回	授 業 内 容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	衛生材料作製	△		○		
2～3	バキュームテクニック、スリーウェイシリンジ操作	△		○		
4	歯科用石膏(特徴・種類・用途)	△		○		
5～8	アルジネート印象採得(顎模型・片顎・上下顎)	△		○		
9～12	アルジネート印象採得相互実習(スタディモデル作製)			○		
13～14	連合印象(顎模型・片顎)	△		○		
15～16	仮封材取扱い	△		○		
17～18	合着セメント	△		○		
19	まとめ	○				

≪評価方法≫

定期試験により判定する。場合により、授業中に小試験を課することもある。
実技試験、課題提出、出欠状況、授業態度を加味し、総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助第2版」医歯薬出版
新歯科衛生士教本　「歯科器械」医歯薬出版
新歯科衛生士教本　「歯科材料」医歯薬出版

≪実務経験≫

歯科衛生士として歯科診療所、歯科口腔外科に勤務。
これまでの実務経験をもとに講義を行います。

科 目 名	感染予防学				授業担当者	大湾　知子	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	1単位 15時間	
授業方法	講義	8	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

市中および施設内感染の複雑・多様化に伴い、歯科衛生士として主体的に感染予防の実践ができるよう感染予防対策の知識・技術を修得する。
科学的根拠に基づいた感染の発生要因、機序および感染予防対策の原理・原則について理解ができ、活かせるようになる。

≪到達目標≫

１．患者・医療従事者における標準予防策・感染経路別予防策が理解できる。
２．感染予防策の基本を理解し、それに伴う感染予防行動と健康管理の意義がわかる。
３．感染予防策と滅菌・消毒・洗浄の重要性が理解できる。
４．口腔内常在菌や疾患別感染予防対策として口腔ケアの必要性が理解できる。
５．環境整備と廃棄物処理、針刺し切創防止の重要性が理解できる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
1	患者主体の感染予防対策	○		
2	感染予防対策の基本	○		
3	歯科医療における滅菌・消毒・洗浄	○		
4	歯科医院における感染予防対策	○		
5	歯科医院における感染予防対策の実際	○		
6	歯科医療従事者の感染予防対策	○		
7	微生物学と感染症の基礎知識	○		
8	疾患別感染予防対策	○		

≪評価方法≫

原則として、定期試験により評価する。授業中に単語試験や単語ノート作成を課して参考とする。試験結果、レポート提出、授業態度、出席状況などの総合評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

歯科医療における国際標準　感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄： ICHG研究会，医歯薬出版株式会社，1-167，2022.

≪実務経験≫

1996年度日本環境感染学会海外派遣員で感染対策看護師業務研修（11病院を1ヶ月間） 2005年第１回日本環境感染学会賞受賞。1997年～現在迄、琉球大学病院感染対策室感染対策看護師併任。2013～2014年度沖縄県看護協会感染管理認定看護師教育課程主任教員。2019年～現在迄 感染管理認定看護師教員。2008年～現在迄、中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校教員（微生物学担当）2018年に10年勤続感謝状授与。

科 目 名	歯科器械・材料学				授業担当者	山里　理恵子	
開講時期	1年 後期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	15	演習		実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

歯科臨床現場において適切な対応ができるように、歯科器械・材料の種類目的及び用途について知識を習得する

≪到達目標≫

①一般診療用器械について十分に理解し、歯科疾患の診査と処置の流れを具体的に説明できる

②歯科材料の組成・特性・取り扱い方を説明できる

③歯科診療で使用される器械・材料の用途と特性を理解したうえで、取り扱うことができる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験・実習・実技
	☆歯科機器学☆			
1	歯科診療における機器の概説、一般診療用機器	○		
2	滅菌･消毒用機器、, 歯科用画像診断装置	○		△
3	歯科衛生士にかかわる機器、検査・診断用機器	○		△
4	治療用機器①	○		△
5	治療用機器②	○		△
6	治療用機器③	○		△
7	治療用機器④	○		△
8	治療用機器⑤　　歯科技工用機器	○		△
	☆歯科材料学☆			
9	歯科材料と衛生士、歯科材料の基礎知識　　歯科衛生士にかかわる材料	○		△
10	印象材、模型用材料	○		△
11	合着材・接着材	○		△
12	成形修復材	○		△
13	仮封材、暫間修復材と仮着用セメント	○		△
14	ワックス、金属、セラミックス	○		△
15	その他の歯科材料　　まとめ	○		△

≪評価方法≫

定期試験、レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的に評価する

≪教科書・参考文献≫

歯科衛生学シリーズ　「歯科機器」「歯科材料」　医歯薬出版

最新歯科衛生士教本　「歯科機器」「歯科材料」　医歯薬出版

≪実務経験≫

歯科医師として与那原中央病院歯科・口腔外科に勤務。主に入院病棟・訪問診療を担当。

歯科診療の経験をもとに、歯科器械・材料学の講義を行います。

科 目 名	臨地・臨床実習				実習担当者	指導教員	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	1単位　45時間	
実習方法	講義		演習		実験・実習・実技	24	
実習場所	校内		(校外)		教　員	(兼任)	(専任)

≪学習目標≫

歯科衛生士業務を習得するために歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。

≪到達目標≫

*臨床実習

・歯科医師からの指示内容を踏まえた対応ができる

・プライバシーを配慮した態度で応対できる

・対象者の守秘義務を遵守できる

・診療室のルールを理解した行動ができる

・医療安全管理に配慮した行動ができる

・感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる

*臨地実習

・対象者の守秘義務を遵守できる

・スタッフ（多職種）との協働、連携した対象者へのサービスができる

・施設等のルールを理解した行動ができる

実習スケジュール		実習方法		
	内　容	講義	演習	実験・実習・実技
1	歯科診療所実習			○
2	障害者施設			○
3	高齢者施設			○
4	幼稚園			○

≪評価方法≫

臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する

≪教科書・参考文献≫

「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典　ポケット版」（クインテッセンス出版）
「歯科衛生士のための歯科臨床概論」（医歯薬出版）

科 目 名	情報リテラシー				授業担当者	上地　弘美	
開講時期	1年　後期				単位・時間数	2単位 30時間	
授業方法	講義	1	演習	14	実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

歯科医療や保健衛生の情報収集・分析・報告等に要する基礎能力を修得する。

≪到達目標≫

コンピュータ操作の初学者が操作を習得し，Word・Excel・PowerPointの一般的な操作が出来ることを目標とする。

（基本操作・報告書作成・諸計算実施・スライド作成,プレゼン技能習得、モラル知識習得）

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	ＰＣの基本操作(PC基本構成とOS、フォルダの概念、データの種類、周辺機器)	○		
2	情報モラル1・Microsoft Word：日本語入力の基本、タイピング、ファイル保存		○	
3	情報モラル2・Microsoft Word：タイピング、ページ設定、文字の装飾		○	
4	情報モラル3・Microsoft Word：タイピング、表を活用した文書作成		○	
5	情報モラル4・Microsoft Word：画像や図形を活用した文書作成		○	
6	情報モラル5・Microsoft Word：練習問題(上記演習内容の総合問題)		○	
7	情報モラル6・Microsoft Word：練習問題(ビジネス文書作成)		○	
8	情報モラル7・Microsoft Excel：基本操作(入力・四則計算・簡単な関数、装飾)		○	
9	情報モラル・Microsoft Word総復習　**【技能中間試験：上記学習内容】**		○	
10	情報モラル8・Microsoft Excel：基本操作(絶対参照、グラフ作成、ソート)		○	
11	情報モラル9・Microsoft Excel：基本操作（グラフ編集、抽出、演習内容の練習問題）		○	
12	Microsoft PowerPoint：基本操作(作成の流れ、スライド作成、装飾と図形)		○	
13	Microsoft PowerPoint：基本操作(グラフ、アニメーション、プレゼン作成)		○	
14	Microsoft PowerPoint：基本操作(プレゼンテーション実施)		○	
15	文書作成・提示資料作成総合実践：Microsoft Word・PowerPoint		○	
	【技能本試験試験：情報モラル＆セキュリティ、PC基本、各種ソフト操作】			

≪評価方法≫

単位認定試験では，授業において演習した事項を実施させて修得度を評価する.

評価は単位認定試験（技能と筆記）に加えて出欠状況や授業態度等も勘案し，総合的に行う。

≪教科書・参考文献≫

１．30時間でマスター　Office 2013　（実務出版 ISBN:978-4-0407-33263-6）

２．情報モラル＆情報セキュリティ　（ＦＯＭ出版 ISBN:978-4-86510-419-6）

≪実務経験≫

・ＰＣ系インストラクターとしてリンクプラス株式会社に勤務。Microsoft Office認定インストラクター、県内小中高校等への派遣講師としての実務経験をもとに情報リテラシーについて講義を行います。

科 目 名	コミュニケーション概論				授業担当者	松園　あかね	
開講時期	１年　前期				単位・時間数	１単位 20時間	
授業方法	講義		演習		実験・実習・実技	10	
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

社会生活を送るために必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解し、
自分の思いを発信すること、相手の思いを聴くこと、さまざなことに目を向け
「気づく」ことができるようになること。

≪到達目標≫

・相手の声に耳を傾け、思いや気持ちを聴きとることができる（傾聴）
・自分の伝えたいことを的確かつ、相手が受け取りやすいように発信することができる
・なぜ歯科の現場でコミュニケーション力が大切か理解できる
・学んだことを実践し、自分なりの「気づき」を得ることができる

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
1	コミュニケーションとは①	△		○
2	コミュニケーションとは②	△		○
3	なぜコミュニケーシが大切なのか	△		○
4	歯科衛生士に求められるコミュニケーシ	△		○
5	「聞く・聴く・訊く」のコミュニケーション①	△		○
6	「聞く・聴く・訊く」のコミュニケーション②	△		○
7	「伝える・伝わる」コミュニケーション①	△		○
8	「伝える・伝わる」コミュニケーション②	△		○
9	情報共有のためのコミュニケーション	△		○
10	医療現場で求められるやさしい日本語によるコミュニケーション	△		○

≪評価方法≫

授業ごとに行うミニレポート、期末のレポート、出席状況により評価を行う

≪教科書・参考文献≫

プリント資料（適宜）

≪実務経験≫

企業内研修担当講師として8年間、新入社員のほか、社員のスキルアップ、リーダー社員の昇格時の
研修などを担当。その後、キャリアコンサルタント、研修講師として14年間、社員研修のほか、
高校生、専門学校生、大学生向けのビジネスマナー研修を実施。様々な現場での経験をもとに
医療人として、社会人として必要なコミュニケーション能力について講義を行います。

科 目 名	接遇対応				授業担当者	久保田　照子	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位 20時間(内8時間担当)	
授業方法	講義	4	演習	4	実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教 員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

医療に関わる者として、持ち続けていかなければならない(医の心)を持った人を育てる。

(礼儀作法を弁えた)人材を育成する。

≪到達目標≫

医療保健従事者として、ゆるぎない信念を持ち患者さんの立場で物事を考え、笑顔と

優しさに満ちた人としての感性を磨き、暖かい人材を育てる。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
1	学生生活と社会人の違い			
	社会人としての自覚	○		
	接遇マナーの必要性	○		
	第一印象		○	
2	日常生活の生活習慣を(基本)身につける		○	
	あいさつ(返事の仕方)	○	○	
	時間を守る	○		
	約束を守る	○		
	TPOについて	○		
3	美しい身のこなし方			
	正しい姿勢(立ち方、座り方、歩き方)	○	○	
	挨拶言葉(お辞儀の仕方)	○	○	
	敬語について	○		
4	礼儀作法			
	心の時代の心とは	○		
	豊かな人間関係	○		
	電話の応対	○		
	沖縄方言のあいさつことば	○	○	
	まとめ	○		

≪評価方法≫

定期試験に於いて、総括評価及び授業態度で行う

≪教科書・参考文献≫

参考資料を適宜紹介

≪実務経験≫

昭和49年久保田チャームスクール設立。着付けや礼儀作法、モデリングを指導。

沖縄ツーリズム・那覇看護専門学校等での実務経験をもとに接遇対応について講義を行います。

科 目 名	接遇対応				授業担当者	吉田　文子	
開講時期	1年 前期				単位・時間数	1単位 20時間（内8時間担当）	
授業方法	講義	1	演習	3	実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

良好な人間関係を築く上で必要言語技術と接遇の基礎を学ぶ

≪到達目標≫

社会人として身につけておきたい言葉遣いと接遇のスキルアップを目指す

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
1	演習を通して接遇を深く理解する	○	△	
2	人の話を的確に聞く言語技術を学ぶ	△	○	
3	自分の思いや考えを的確に伝える言語技術と非言語を学ぶ	△	○	
4	好感が持てる言葉遣いと基本的な敬語を学ぶ	△	○	

≪評価方法≫

定期試験において総括評価を行う

実技試験を総括評価に加味する

≪教科書・参考文献≫

必要に応じて紹介する

≪実務経験≫

およそ25年間、琉球放送他マスコミでレポーター、番組パーソナリティ、番組企画制作を　担当。その後も司会やナレーションなど様々な場面で言葉を扱う仕事に従事。言葉の力とコミュニケーションの専門的な知識を得ることを目的に2007年に上京。2008年の秋より話し方とコミュニケーションの教室を主宰。良好な人間関係を築くための言語技術と、人間の行動と心理について演習を中心に授業を行う。

科 目 名	接遇対応				授業担当者	上江洲　朝男	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位 20時間（内6時間担当）	
授業方法	講義	3	演習	3	実験・実習・実技		
授業場所	(校内)		校外		教　員	(兼任)	専任

≪学習目標≫

学校生活や実習、実社会において役立つ日本語の使い方や基本的な知識を学ぶ。

≪到達目標≫

・日本語を、①敬語　②文法　③語彙　④言葉の意味　⑤表記　⑥漢字　の６つの領域に分け、様々な角度から学び、「日本語検定」３級取得を目指す。

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験	実習	実技
1	・日本語検定について ・各領域の解説読解及び練習問題（①敬語　②文法　③語彙）	○	△			
2	・各領域の解説読解及び練習問題（④言葉の意味　⑤表記　⑥漢字） ・総合問題	○	△			
3	・検定の振り返り（不得手な領域について知り、今後の対策を考える）	○	△			

≪評価方法≫

・授業内の取り組みの様子や練習問題等の結果で形成評価を行う。
・検定試験の結果で総括評価を行う。

≪教科書・参考文献≫

・教科書として「ステップアップ　日本語講座　中級」を使用する。
・参考資料として、「日本語検定　公式過去問題集　３級」を使用する。

≪実務経験≫

①公立中学校国語科教教諭、那覇市立教育研究所指導主事、沖縄県教育庁義務教育課学力向上推進室主任指導主事として勤務、主に国語教育を担当。
②琉球大学教職センター教授として勤務、主に教員養成にかかる業務を担当。
③現在、小・中学校国語教科書編集委員、沖縄県子どもの読書活動推進会議会長を務めており、①～③での実務経験を基に「日本語」の正しい使い方について講義・演習を行います。

科 目 名	看護概論				授業担当者	國吉　恒子	
開講時期	1年　前期				単位・時間数	1単位　20時間	
授業方法	講義	10	演習		実験・実習・実技		
授業場所	校内		校外		教　員	兼任	専任

≪学習目標≫

看護学を学び患者の精神的面をも含めた全身状態に目を向け歯科医療ができ、多様化する高齢社会の歯科医療を担う

≪到達目標≫

・病院における歯科衛生士の役割を理解する
・日本の看護、欧米の看護の歴史を学び広い視野で看護概論を学ぶ
・看護とは何かを学ぶ
・歯科衛生士が、知っておくべき看護技術を修得し実施できる
・歯科衛生士に必要な看護実務を学ぶ
・地域医療活動における歯科衛生士の役割を学ぶ

≪授業計画≫

回	授　業　内　容	授業方法 講義	演習	実験 実習 実技
1	病院における歯科衛生士の役割と活動の場を学ぶ	○		
2	看護の歴史を学び看護とは等看護論の概論を学ぶ	○		
3	看護の実際	○		
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術、ﾊﾞｲﾀﾙ測定を学び、自分の健康管理もする	○		△
5	摂食～について学ぶ	○		△
6	歯科衛生士に必要な看護実務	○		
7	入院加療を要する患者の看護	○		
8	地域医療活動における歯科衛生士の役割	○		
9	福祉チームとの連携	○		
10	関連法規を学ぶ	○		

≪評価方法≫

定期試験で総括的評価を行う
レポート提出、出欠状況、授業態度などを加味する

≪教科書・参考文献≫

「歯科衛生士の看護学大意」(医歯薬出版)

≪実務経験≫

沖縄リハビリテーション福祉学院(14年)、那覇看護専門学校(7年)、沖縄赤十字病院(5年)等で勤務。
この実務経験をもとに講義いたします。